

読解力・読解力・読解力
— OECD・PISA 調査結果を考える —

開倫塾
塾長 林 明夫

Q：2015年のPISA調査の結果が2016年12月6日に発表になりましたね。

A：(1)はい。パリに本部があり、日本が第2位の拠出国である国際機関、OECD(経済開発協力機構)の15歳時の学力到達度テスト(PISA)が、2000年から科学、数学、読解力の3分野について3年ごとに行われています。その2015年の調査結果が、2016年12月6日に発表されました。

(2)2015年のPISAで、日本は科学は2位、数学は5位と素晴らしい結果でしたが、読解力は8位とあまり振るいませんでした。

Q：どうしたらよいと考えますか。

A：科学と数学は、第1位までもう一歩です。2018年、2021年には1位になれるよう、また、読解力は前回の4位以上になれるよう、国を挙げて万全の準備をすべきと考えます。

Q：PISAで世界一を目指すことは意味があるのですか。

A：(1)2000年以来、3年ごとに5回行われたPISAですので、その内容や結果、活用方法もかなり知られてきました。

(2)OECDは、これからの世界を見据えた上で、あるべき社会やよりよき人々の生活を目指すためにつくられた国際機関です。PISA調査も、あるべき社会やよりよき生活を目指すための学力とは何かを考えてつくられたテストです。

(3)2000年から3年ごとに行われた過去5回のPISAの問題をすべて解いてみればおわかりになりますが、素晴らしい設問ばかりです。

(4)PISAの科学と数学、読解力の3分野で、国を挙げて世界一を目指すことは、また、世界トップレベルの維持を目指すことは、日本の教育水準の大幅レベルアップのために極めて意味のあることと確信します。

(5)日本の教育政策を担当なさる文部科学省は、多くの優秀な職員をOECDに送り込み、PISA実施の中心的な役割を担ってきました。

(6)15年たちましたので、各都道府県教育委員会や市町村教育委員会、学校関係者にもPISAの目的や内容、活用方法などが少しずつ浸透してきたようです。

Q：8位の読解力はどのようにしたらよいでしょうか。

A：(1)読解力の基礎は「語彙力」ですので、小学生だけでなく、中学生と高校生も全教科にわた

って「辞書」の活用を徹底的に行い、「語彙数」つまり「ことばの数」を大幅に増やすことが第一と考えます。

(2)具体的には、英語や数学、理科を含め全教科を勉強していて意味のわからない「ことば」があったら、「気持ちが悪い」と思い、おっくうがらないで「辞書」で調べる。調べたことは、意味調べノートやカードに書き写し、その場で意味を覚え、正確に書けるまで書き取り練習をする。毎日1回は意味調べノートやカードを最初のページから読み直し、「語彙数」「ことばの数」を意識的に増やす。

(3)この作業を小・中・高校の12年間継続すれば、「語彙数」は飛躍的に増加し、読解力が確実に身に着きます。

Q：読解力を身に着けるには、辞書だけでよいのですか。

A：(1)「読書」に励み「思慮深さ」を身に着けること。「新聞」を毎日読み「自分で考える力」「批判的思考(クリティカル・シンキング)能力」を身に着けること。この2つも欠かせません。

(2)では、どのように「読書」や「新聞」に親しんだらよいのでしょうか。「図書館を徹底的に活用する能力」を身に着けることが、最善の方法と考えます。

(3)学校図書館や地域の図書館、大学図書館などの図書館や図書館と呼ばれる施設を徹底的に利用、活用して「読書」と「新聞」に親しむと、読解力を身に着けることができます。図書館には、「語彙力」を身に着けるために必要な「辞書」も必ずあります。図書館こそ、「読書」「新聞」「辞書」を活用して読解力を身に着ける最高の施設だと私は確信します。

Q：読解力には図書館ですか。意外な答えですね。

A：私は、2004年から2012年までの8年間栃木県教育委員会の栃木県社会教育委員を務め、社会教育施設としての図書館の在り方について勉強し、県教育長に様々な提言をさせて頂き、図書館こそが読解力向上の場であると確信を深めました。

Q：図書館の在り方や活用の仕方について、学習塾・予備校・学校の先生方や教育政策を考える皆様にお伝えしたいことは何ですか。

A：(1)ボランティアでもOKですから、学校図書館には必ず専任の図書館司書を複数配置すること、学校の校門が開く時間から校門を閉める時間まで図書館をオープンしておくことが大事です。

(2)児童・生徒が土曜日や日曜日、祝日に部活動などで学校に来ているのであれば、その時間は必ず学校図書館もオープンしておくことが大切です。

(3)校長は、全教科の先生方に図書館を使った授業を年に1回以上実施するように指示してください。対象は学校図書館、公立図書館、大学図書館の3つです。授業をすることが難しかったら、各図書館の使い方を各館長先生や司書の先生方から教えて頂く、図書館見学会でもOKです。

(4)特に、難関大学進学を目指す学習塾・予備校・私立学校では、小学生から高校生までの年間カリキュラムの中に必ず図書館の使い方指導を入れ、大学入学までに大学図書館を活用で

きる能力を生徒全員に身に着けさせて頂きたい強く希望します。

- (5)「大学とは図書館である」といわれるほど、大学における図書館の重要性は高いのに、図書館の価値や意味についての教育が小学校、中学校、高校時代に行われていないため、大学生になっても大学図書館を使いこなせない学生が多数存在します。
- (6)ごく少数の親切な大学では、「初年次教育」で大学図書館の使い方について簡単な説明があります。しかし、大多数の大学、特に難関大学と呼ばれている大学では、履修案内やガイドブックの解説のみで、大学図書館の活用についての具体的な指導はないようです。
- (7)そうであるならば、是非、難関大学を目指す児童・生徒の皆様に、小学生、中学生のうちから図書館の役割や活用方法についての指導をお願いします。そして、高校生になったら近くの大学図書館を見学させて、大学での図書館を用いた勉強の仕方を学ぶ機会を与えて頂きたいと存じます。
- (8)生徒数減等で、空いている教室やスペースのある学習塾・予備校・私立学校では、その空いている教室やスペースを図書館や読書スペース、自習スペースとして積極的に活用なされることを御提案します。
- (9)本がなければどうするか。ブックオフなどと同じ価格で買い取る。保護者・地域・教職員の皆様に PR して、家にある本や辞書などを集め、分類して並べれば、お金をあまりかけずに簡単な図書館ができます。
- (10)2003 年の第 2 回 PISA で世界一になったフィンランド文部省が、2005 年 3 月にヘルシンキ大学で「なぜフィンランドは PISA 調査で世界一になったのか」のテーマで国際会議を開きましたので、私も参加してきました。その中で、フィンランドの様々な読解力向上の取り組みの中に、本好きの市民が自分の持っている本を近くの子どもたちに自宅で公開する「街角(まちかど)図書館」が至る所にあることを学びました。
- (11)フィンランドの読解力が PISA で毎回トップレベルである理由は、地域の教育力でした。トーベ・ヤンソン作の「ムーミン」一家の人々がいつも本を手にはしているのはそのような文化のあらわれと、タンペレ市立図書館の地下にあるムーミンミュージアムを見学して実感しました。

Q：最後に一言どうぞ。

- A：(1) 昨年(2016)年の 11 月第 3 木曜日の 11 月 17 日(木)には、「ユネスコ世界哲学の日 IN 国連大学(哲学なくしてユネスコなし、今、哲学しよう)講演会」(開倫ユネスコ協会主催、伊豆ユネスコクラブ・スプリングユネスコ協会共催、日本ユネスコ協会連盟後援)に 150 名もの多数の皆様に御参加を賜り、有難うございました。
- (2) パリにあるユネスコ本部が 2002 年に「ユネスコ世界哲学の日」を定めて 14 年目にして、日本でも「哲学の日」の本格的なイベントが開催されました。毎年 11 月の第 3 木曜日は「世界哲学の日」ですので、2017 年は「哲学の日」を御活用になり、「哲学教育」をスタートして頂きたいと存じます。
- (3) フランスの高校 3 年生は、文系も理系も哲学を学び、3～4 時間にも及ぶ哲学の試験を受けて、大学進学を果たすようです。日本の高校では哲学の基礎である「倫理」を学ばない生徒が増え、大学では「哲学」を履修しない学生が増えています。このままでは哲学を学ばな

いで社会に出る日本人が激増しますので、是非、どのような形でも「哲学教育」を御展開頂きたくお願い申し上げます。

(4) 新年にあたり、本を2冊紹介させていただきます。1冊目は、ミシガン大学准教授の外山健太郎著、松本裕訳「テクノロジーは貧困を救わない」みすず書房 2016年11月22日発行です。2冊目は、元 MRA 日本駐在代表のバーゼル・エントウィッセル著、藤田幸久訳「日本の進路を決めた10年～国境を超えた平和への架け橋」増補改訂版ジャパントイムズ 2016年10月5日刊です。どちらも日本や世界のこどもたちの将来を考える上で、教育に携わる皆様にとり必読書と考えます。

— 2016年12月9日(金)林明夫記 —